

令和7年度

滋賀県

アートコラボレーション事業

年間事業報告

滋賀県アートコラボレーション事業とは

滋賀県内を拠点とする文化ホールや団体、アーティストなどから提案された事業を公益財団法人びわ湖芸術文化財団 地域創造部が協働で実施するプロジェクトです。

地域の多様な文化芸術創造・鑑賞活動を支援し、色々な文化芸術がまちにあふれ、だれもがわくわくするような滋賀であるようお願い活動します。

募集期間 2024年7月17日(水)から11月8日(金)まで

実施期間 2025年6月1日(日)から2026年2月22日(土)まで

ホールプロデュース 部門

応募件数：4件

採択・実施件数：3件

対象 県内の文化ホール・文化ホールに協力を得られる団体

- 内容 ▶ 地域で受け継がれてきたものを次世代に伝える事業
▶ 子どもが文化芸術を体験する事業
▶ 福祉や多文化共生と文化芸術の協働による事業

おうみアート コーディネーター部門

応募件数：10件

採択件数：7件

実施件数：5件

(採択のうち2件が中止)

対象 アートNPOや文化団体、文化芸術活動を行う個人

- 内容 ▶ 地域課題・社会課題に対して創造的な取り組みを行う事業
▶ 子どもが文化芸術を体験する事業
▶ 地域で受け継がれてきたものの価値を発信する事業
▶ 文化芸術の担い手の活動が活性化する事業

採択事業をふりかえって

滋賀県アートコラボレーション事業は、県内5か所の県立文化芸術会館の地域移管を契機に、2009年度に開始しました。地域の文化ホールが実施する自主企画事業を「協働」という形で支え、ともに地域の文化振興を担うことを目的とした取り組みです。

この16年の間に、地域の文化ホールを取り巻く環境は大きく変わりました。利用者のニーズは多様化し、全国の文化ホールでは公演を提供する場から、参加・交流・創造の拠点へと役割を広げる動きがみられます。こうした変化を踏まえ、本事業に「アートコーディネーター部門」を新設しました。文化ホールにとどまらず、芸術・文化に関わる多様な主体とも協働し、それぞれのアイデアや行動力を生かしながら、地域と文化を育む活動を展開してまいります。

2025年度の協働事業を振り返り、改めて“だれもが文化の担い手”であることを実感しました。本事業が、こうした個々の思いや挑戦を結んで発信する場となり、文化ホールを中心に広がる地域の文化拠点づくりにつながることを願っています。

公益財団法人びわ湖芸術文化財団
地域創造部 部長 福本美紀

本年度より「滋賀県アートコラボレーション事業」に「おうみアートコーディネーター部門」が新設され、個人や団体が応募できる枠組みとなりました。

各事業の内容としては、例えば、リサーチに立脚する「琵琶湖周航和歌の旅」であったり、「滋賀にも発表の場所がほしい」という「淡海奇譚芸術祭」であったりと、それぞれが地域と関わる中での着眼点・切実さ・ジャンルの特性が発揮されていることが印象的でした。

また、「共生のまち演劇プロジェクト」や、「四つ葉のクローバー」のような、ケアの現場の中での表現の必要性からの提案内容もあり、あらためて芸術文化が人生を彩り、人の価値観を広げていく可能性を感じています。

一方、「ホールプロデュース部門」では、各拠点の特長や運営方針を踏まえた事業をご提案いただき、より長期的・広域的な視点で「場」を運営する存在の大切さを、あらためて感じる機会となりました。

これからも両部門の運営により、県内の文化ホールと文化芸術活動者のみなさんをつなぎ、活動が広がるきっかけを創出できるよう、頑張って参りたいと思います。

公益財団法人びわ湖芸術文化財団
事業担当 眞島美帆子

狂言であそぼ

ひがしおうみ狂言・わくわく体験2025



東近江市の伝統芸能振興拠点、てんびんの里文化学習センターで開催する狂言企画。井伊家に仕え、滋賀県とも縁が深い茂山千五郎家が出演。古典演目「菌」の上演では、子どもたちが舞台上がりキノコ役を演じる。地域の活動団体の演目発表も合わせて行い、地域の子どもたちや市民が狂言に触れる機会をつくる。

日時 2025年8月31日(日) 13:00開演

場所 東近江市てんびんの里文化学習センター
ホールあじさい(東近江市五個荘菟田町583)

協働主催 公益財団法人東近江市地域振興事業団

実施者のコメント

コロナ禍以前に企画していた演目「菌」のワークショップ、および市民参加の公演ができ、また、地域で活動する狂言団体の本格的な演目発表や帯結びアートの展示もあり、伝統芸能の伝承や日本文化の普及に務めている地元団体の発表が来場者の目に留まる機会となった。狂言には敷居が高いクローズなものだという先入観もある中で、世代や国籍を超えて多くの人に伝統芸能に親んでもらえるようにしていくには引き続き事業の試行錯誤が必要だと強く実感した。

[東近江市てんびんの里文化学習センター 瀬戸貴文]

鑑賞者のコメント

狂言に初めて触れ、想像よりも気軽に楽しめたので、私のように「そもそも狂言とは？」という層にも魅力が届いたらいいなと感じました。狂言に興味のある方だけでなく、もっと幅広い方に気軽に観てもらえる機会が広がっていったら嬉しいです。

[アトリエモルフェ 長谷佑美]

びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団

BABO 第2回演奏会

ブルブル・プロジェクトvol.2



若年層への音楽振興に取り組む栗東芸術文化会館の協力を得て行った企画。オーストリアの作曲家、ブルックナーの生誕200年を記念し、2024年に始動したアマチュアオーケストラの第2回公演。びわ湖とオーストリアの形がそっくり、という縁をきっかけに、作曲家の背景も紐解きながら、楽曲への想像力を育むプロジェクト。

日時 [プレ企画 レクチャー&コンサート]
2025年6月14日(土) 14:30開演
[コンサート]
2025年9月7日(日) 15:00開演

場所 栗東芸術文化会館さくら大ホール(栗東市糺二丁目1-28)

協働主催 びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団

実施者のコメント

回数を重ねることで知名度を向上させ、来場者と演奏者双方の満足度を高めていきたいですし、会場近くの企業様からの協賛が増えてきていますので、地域との協働を視野に展開することも考えていきたいです。

[びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団 尾瀬正行]

鑑賞者のコメント

ブルックナーやオーストリアに親しみを感じられるよう、プレコンサートやパネル展示など、様々な取り組みを実施しておられました。公演前のプレトークもわかりやすく、素晴らしい演奏とともに音楽の世界観を味わうことができました。

[大津詩音研究所 渡辺智美]

愛荘むら芝居 愛知川宿蝸牛庵



地域の歴史を題材に、地域の出演者・スタッフにより作り上げられるオリジナルの「むら芝居」。今回は、江戸後期、愛知川宿で花開いた芭蕉俳諧の世界を上演。世代を超えた参加者が共に創作を行うことで、つながりと熱気をつくる。

日時 2025年9月7日(日) 14:00開演

場所 愛荘町立ハーティーセンター秦荘大ホール
(愛知郡愛荘町安孫子822)

協働主催 一般社団法人愛荘町文化協会

実施者のコメント

このたびの「愛荘むら芝居」が演劇好きの方々の心に火をつけたようで、「次はどうする？」などの声が出て、令和4年度第1回むら芝居「愛智河架橋物語」をリメイクして再上演してはどうかなど積極的な提案もでてきた。また、むら芝居に参加したキャストやスタッフのうち13名で、演劇サークル「愛荘むら芝居ICHIZA」が結成された。今後の活動に期待したい。

[一般社団法人愛荘町文化協会 林定信]

鑑賞者のコメント

むら芝居の伝統、まちの人たちの熱意、文化協会のバックアップ等のリソースをフル活用されており、集客にも成果が現れていました。みなさん、働きながら、本業をしながら、演劇をされていると思います。このような方々が文化を支えているなあと感じています。聴覚障害者向けの鑑賞サポートとして、字幕スクリーンが舞台の上手側に置かれていました。一緒に観劇した車椅子の補聴器使用者は、反対側にある車椅子用の席に座ってしまい、字幕が見づらそうでした。これからも公共ホールでの催しに鑑賞サポートの拡充が進み、必要な方が情報が届くといいですね。

[共生のまち演劇プロジェクト 種田洋平]

Bambino! 0才からのパフォーミングアート Little Wonders IN SHIGA

～ はじめての劇場 ～



撮影：中川敬介

全6日間わたる乳幼児対象のパフォーミングアーツプログラム。子どもたちが舞台芸術に触れることができる環境づくりに取り組むダンスアーティスト千代その子による企画。孤立しがちな乳幼児の養育者を社会全体であたたかく支えていけるような空気づくりをめざしている。タイのベイビーシアターを牽引するLadda Kongdachをゲストに招いたトークイベントほか、ダンス、音楽、俳優による絵本パフォーマンスなど実施。

日時 2025年7月6日(日)、7月8日(火)、7月11日(金)、
7月15日(火)、7月25日(金)、7月22日(火)

場所 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール研修室(大津市打出浜15-1)、
旧大津公会堂3Fホール(大津市浜大津1丁目4-1)

協働主催 千代その子

実施者のコメント

今回は参加型ワークショップの開催を行ったが、今後、アーティストならではの視点をいかした、より創造的な体験の場を提供することで、滋賀ならではの魅力を反映したプログラムを展開できる可能性を強く感じた。今後も地域性を活かした独自のプログラムを模索し、子どもと大人がともに芸術を体験できる環境づくりを発展させていきたい。

[Bambino! 千代その子]

鑑賞者のコメント

双方向のコミュニケーションを大切にする上演で、安心と共感のある時間を作っていた。こういった、劇場空間に足を運びにくい育児中家族を対象とした催し物は、その公共的な性格の割には全国的に見ても実施数が多いとは言えず、これを自主的な取り組みとして継続している千代氏は貴重な存在である。このノウハウを複数の地域人材が共有し、地域的な広がりが出てくることに期待したい。

[劇場、音楽堂等連絡協議会事務局長/神戸市民文化振興財団事業部長 熊井一記]

クルーズ船で巡る 「琵琶湖周航和歌の旅」



大津祭や比良八講のリサーチや、自彊術による合唱などを行う大津詩音研究所による企画。今回は、湖上の船の中でコンサートを行い、滋賀県内にある数多くの歴史的景勝地や歌枕の地を眺め、その物語に思いを馳せるクルーズの旅を行う。和歌を通じて景色を見ることで、古来からの人間観を感じさせる試み。

日時 2025年9月6日(土) 10:00~11:30
場所 琵琶湖汽船「メグミ」発着地：大津港
(大津市浜大津5丁目1-1)
協働主催 大津詩音研究所

記録映像



実施者のコメント

今般の世界状況は予断を許さないものです。ユネスコの教育勧告の提言のひとつに「惑星思考」があります。我々は、この惑星に生きる一つの生物であり、「自然」は操作、管理すべきものではなく、共生すべきものである、という考え方です。我々日本人は万葉から平安時代にかけて、我と外界の垣根を超えた「自然」との共存を詠ってきました。今回のコンサートでは、和歌の史跡を湖上で眺めながら、その作品を辿ってまいりました。今回のコンサートの記録映像や、その取り組みの発信を通じ、このかけがえのない日本の遺産を世界に訴えていきたいと考えております。

[大津詩音研究所 金子瑞穂]

鑑賞者のコメント

単なる演奏会や朗詠ではなく、移動する船上で景観と歌の情景とを結びつけるという企画により、五感で文化を体験させる新しい芸術体験が創出されていた。和歌、源氏物語、神社仏閣、ハープ伴奏など、多様な文化を元に滋賀県の新たな景色を演出するという取り組み、解説なども丁寧で教養的価値も高かった。

[てんびんの里文化学習センター 瀬戸貴文]

淡海奇譚芸術祭 -Ōmi Creative Tales Arts Festival-



「滋賀にはクリエイターは多いが、発表の場所が少ない」という課題に取り組む企画。滋賀を拠点とする個性的なクリエイターによる、新たな文化を発信するサブカルチャーフェスティバル。ドラッグクイーンのショーなど、多様な表現を行い、「自分の“好き”を発信しよう!」というメッセージを伝える。

日時 2025年10月26日(日) 10:00~16:00
場所 豊郷小学校旧校舎群(豊郷町石畑518)
協働主催 長谷佑美(アトリエモルフェ)

実施者のコメント

ドラッグクイーン牡丹氏のステージとファッションショーでは若者とのコラボが実現した。牡丹氏のショーでは、将来歌手活動をしたいと夢を持つ中学生が参加をしてくれ、若者にチャレンジと活躍の機会を設けることが達成できた。文化財である旧校舎群の使用についても好評であり、普段サブカル文化に触れる機会が少ない来場者からも「新しい世界を知るきっかけになった」との声が寄せられた。

[アトリエモルフェ 長谷佑美]

鑑賞者のコメント

駐車場には大阪や福井、三重など県外ナンバーの車両が多く並んでおり、県外のお客様への滋賀の魅力発信もできていたと感じました。会場がアニメ「けいおん!」の聖地ですので、その観点からの紹介や展示があれば現地とのコラボレーションという意味で、更にPRにつながったかと思います。

[びわ湖=オーストリア・ブルックナー管弦楽団 尾瀬正行]

共生のまち 演劇プロジェクト 第9回公演 「積もる話はいろいろと……。」



障害当事者が日々感じていることを発信する劇団まちプロ一座による演劇公演と、「共生」の志でつながる団体の関連企画。人それぞれの違いを当たり前のこととして、認め合い、生活する「共生のまちづくり」をめざし、「説明のできない気持ち」を舞台上から伝える。

日時 2025年11月29日(土)、30日(日) 13:30開演
場所 スカイプラザ浜大津(大津市浜大津1丁目3-32)
協働主催 共生のまち演劇プロジェクト実行委員会

実施者のコメント

劇場での公演が県内各地の出張上演につながり、また、出張上演をすることで、各地の方が劇場での公演を観に来るようになり、良いサイクルができてはじめています。ここ数年、文化や福祉に関心がある方だけではなく、様々な障がい当事者、医療的ケアを必要とする方、留学生、子どもたちなど、共生のまち演劇プロジェクトの理念が様々な層に届き始めているのを感じています。アートコラボレーション事業に参加し、県内各地の表現者、表現活動団体にとのつながりができ、また、メディア取材が多く入ったことがありがたかった。

[劇団まちプロ一座 座長 小石哲也]

鑑賞者のコメント

学ぶところの多い事業でした。芸術・文化は多様な価値観が前提となり、すべての人に共感を得ることは難しい。一つのテーマに継続して取り組むことで、俳優やスタッフは観客と一体となって舞台をつくり上げることができるようになります。特にこのたびの上演では、劇団まちプロ一座を支援されてきた方々が多く来場されていたのでしょうか。舞台と客席が非常によく共鳴していたように感じ、居心地の良い鑑賞でした。目先のことにとらわれずに、「続ける」ということの大切さ、さらにこんなこともできると舞台芸術の可能性について改めて考えさせられました。とにかく「何が始まるんだ」と妙にワクワクする楽しい舞台でした。

[一般社団法人愛荘町文化協会 林定信]

CLOVER DREAM LIVE 2026



©おおえちえ

社会的養護施設出身者のつながりをつくるNPO法人四つ葉のクローバーによる企画。運営する“居場所”である「マザーボード」で詩と音楽のワークショップを実施。ファシリテーターは詩人 上田加奈代と音楽家 鈴木潤。ライブを行い、心のうちを自由な言葉で伝える。

日時 2026年2月22日(日) 14:00開演
場所 Blue Music Studio 1Fホール
(守山市勝部6丁目4-37)
協働主催 四つ葉のクローバー マザーボード事業部

実施者のコメント

出演者の若者たちにとっては、自分の想いを言葉にし、拍手や共感を受けることで、自己肯定感や自己効力感が向上する機会となった。自己理解が深まり、トラウマ経験の心理的回復につながった。また、「支援される側」に回りがちな若者たちが「発信する側」になることで、社会に対する主体性が生まれ、同じように悩んでいる若者たちに希望を与えたいというピアサポーター的な役割を果たすことができた。アートコラボレーション事業との協働によりイベントの完成度が向上し、新たな層に声を届けることができた。

[NPO法人四つ葉のクローバー 大江千恵]

鑑賞者のコメント

打ち合わせの日に訪問したため、全体を拝見できた訳ではありませんが、日頃から職員の方と出演する若者の間に丁寧に積み重ねられてきた信頼関係があり、その土台の上にアーティストが招かれている点が印象的でした。「詩」という手法は、身近でありながら日常的に使われることは少なく、言葉になりにくい感情や経験と向き合うための適切な媒介になっていたように思います。「演者」と「観客」という関係性を丁寧にデザインすることで、普段の生活の中ではなかなか出会うことのない若者の声に触れることができる仕組みは、「社会にひらき、地域課題を共有していく」という本事業の目的に合ったものだと感じました。

[Bambino! 千代その子]